



～ 授業の見取りと探究的な学び～

☆ 1年1組(探究進学科)の「歴史総合」の実践から

テーマ「なぜ、第一次世界大戦は世界大戦になってしまったのか」

～ジグソー法を活用して

地歴公民科 大岡先生

7月11日、1年1組の「歴史総合」において、「なぜ、第一次世界大戦は世界大戦になってしまったのか」を大きな問いとして問題解決学習を行いました。ジグソー法を用いたグループ活動による話し合いにより、その答えを探していきました。

「外交」「戦術・兵器」「植民地」「戦争に対しての人々の反応」「大衆の動員」の5種類の観点による資料から、戦争が拡大していった要因を探っていきました。

資料から分かることを発言したり、これはどういうことかとメンバーの意見を求めたりする中で、資料の読み取りの確認がされ、様々な気づきに繋がっていきました。

福井大学教職大学院の木村先生にも生徒たちの学びを見取って頂きました。



① エキスパート班に分かれ、各資料の読み取りについて、話しあいました。



国語で学んだ「漁夫の利」みたいなことが起こったっていうこと？

② 自分が読み取った資料から分かったことを、他の資料を読み取ったメンバーに伝え、情報を統合していきます。他教科で学んだことを活用している発言もみられました。

☆ 学びをつなげる

授業×探究×地域「大虫公民館」×大学

7月8日(金)、外国籍の子どもたちが日本語をどのように習得していくかについて、山形大学でも授業を行っていた西上紀江子先生に、「外国籍の子どもたちの日本語習得」について講義を頂きました。時折、生徒にペアトークの時間をとって頂き、自分事として考えながら学びました。

国語の授業で『日本語は論理的か』(野矢茂樹著)を学び、外国の人について日本語は分かりやすいかという問いについて考えたり、探究活動で外国籍の子どもたちの日本語学習について取り組んでいる生徒がいる中で理論と架橋しながら学びを深めてほしいという願いのもと開かれた会です。

会には大虫公民館で放課後、外国籍をルーツにもつ生徒に学びを提供している氏にも参加していただきました。早速次の日に大虫公民館にボランティアに行った生徒もいました。